

2005年3月期 第1四半期業績概況 および 業績予想(要点)

1. 2005年3月期第1四半期の連結業績(前年同期比)

- ・増収増益。

(単位:億円、%) 千万円未満切り捨て

	第1四半期実績 (%)	前年同期実績 (%)	増減 (%)
売上高	386.4	374.7	11.7 (3.1)
営業利益	25.0 (6.5)	20.0 (5.4)	4.9 (24.7)
経常利益	26.6 (6.9)	19.8 (5.3)	6.7 (34.0)
当期純利益	14.5 (3.8)	12.5 (3.3)	2.0 (16.1)

()内は売上高利益率、ただし増減欄は増減率

(単位:億円、%) 千万円未満切り捨て

	第1四半期末実績 (%)	前期末実績 (%)	増減 (%)
総資産	1,576.0	1,605.7	-29.6 (-1.8)
株主資本	503.0 (31.9)	500.4 (31.2)	2.6 (0.5)
有利子負債	499.9 (31.7)	536.3 (33.4)	-36.4 (-6.8)

()内は対総資産比率、ただし増減欄は増減率

(単位:億円) 千万円未満切り捨て

	第1四半期実績	前通期実績
フリー・キャッシュ・フロー	6.6	157.7

(1) 売上高

- ・ダイカスト、印刷機器、住建機器の3事業全てで増収。
- ・特に印刷機器事業は、中型機の販売が国内、輸出ともに好調で増加した。
- ・ダイカスト事業は、米国子会社の為替換算による減少や一部の国内自動車メーカー向けが減少したものの、その他の国内自動車メーカー向けの需要が伸びたことなどから、全体では増加した。
- ・住建機器事業は、パワーツールの国内販売が減少したが、同輸出や建築用品が伸び、全体では増加した。

(2) 利益

- ・売上高増加、コスト削減、生産性の向上などにより、営業利益、経常利益、当期純利益は全て増益となった。

(3) B/S、C/F

- ・総資産は、配当金の支払い、有利子負債の返済などにより現金及び預金が減少したことなどから、前期末に比べ約30億円減少した。
- ・有利子負債は、前期末に比べ約36億円削減し、約500億円となった。
- ・株主資本は、当期純利益による増加があったが、配当金支払いによる減少もあり、前期末に比べ約3億円の増加にとどまった。この結果、株主資本比率は0.7ポイント良化し31.9%となった。
- ・営業活動によるキャッシュ・フローは約39億円あったが、投資活動による固定資産などの取得が約32億円あり、フリー・キャッシュ・フローは約7億円であった。

2. 2005年3月期の連結業績予想（前年同期比）

- ・売上高、利益とも当初予想（5月14日）を上方修正。
- ・前年同期比で中間期は、増収減益（経常利益は増益）。通期は、減収減益。

（中間期）

（単位：億円、%）千万円未満切り捨て

	当期予想 (%)	前期実績 (%)	増減 (%)	当初予想
売上高	770	758.9	11.0 (1.5)	735
営業利益	45 (5.8)	45.6 (6.0)	-0.6 (-1.5)	40 (5.4)
経常利益	47 (6.1)	46.1 (6.1)	0.8 (1.9)	40 (5.4)
当期純利益	25 (3.2)	102.0 (13.4)	-77.0 (-75.5)	24 (3.3)

（ ）内は売上高利益率、ただし増減欄は増減率

（通期）

（単位：億円、%）千万円未満切り捨て

	当期予想 (%)	前期実績 (%)	増減 (%)	当初予想 (%)
売上高	1,545	1,552.5	-7.5 (-0.5)	1,500
営業利益	97 (6.3)	103.4 (6.7)	-6.4 (-6.3)	89 (5.9)
経常利益	97 (6.3)	99.9 (6.4)	-2.9 (-3.0)	87 (5.8)
当期純利益	54 (3.5)	128.1 (8.3)	-74.1 (-57.9)	52 (3.5)

（ ）内は売上高利益率、ただし増減欄は増減率

（1）売上高

- ・当初予想よりダイカスト事業が増加する見通し。一部の自動車向け減少の影響が当初の想定を下回ること、その他の自動車向けが全般的に好調と予想されることによる。
- ・印刷機器事業も若干増加する見通し。
- ・この結果、前年同期比では、中間期は増収の見通しだが、通期では為替の影響もあり減収の見通し。

（2）利益

- ・売上高の増加などから、営業利益、経常利益、当期純利益は全て当初予想を上回る見通し。
- ・この結果、経常利益は中間期では前期比微増、通期では減益となる見通し。
- ・当期純利益は前期のような特別利益（保有有価証券の売却益）がないため、中間期、通期とも減少する見通し。

以上